

# 絆 求 め て

1月 12日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



## サークルタイムについて

昨年8月3日に実施しました、「現職教員研修」では、講師の大豆生田啓友先生より、サークルタイムについてご紹介いただきました。研修会の質疑では、「サークルタイムをどのように進めていけばいいか」との質問もありました。この問いに対する大豆生田先生の返答を紹介します。

子ども主体の保育を進める上で、サークルタイムは有効な手立て。どこの園でも自由あそびから入っていくことが多いと思う。自由遊びの中で出てきた話を、子ども達に聞いてみる。「自由遊びでのこと、紹介したい」とか「明日もやってみよう」として、「紹介してくれる人」と聞いてみる。最初は慣れていなくても、段々に言えるようになっていく。その中で、「この遊び、明日も続けたい」とか、「今日は、このこと自慢したい」などの反応が出てきて、聞いている人にもとても魅力的に映る。「真似してみたい。」先生からは、「じゃあ、明日はこんなこと準備するね。」という話になる。時間は園によって違う。大切なのは、子どもたちが言い合ったり聞き合ったりすることから次につながる。その事で、学びが探究型になる。遊びが1回1回ぶつ切れにならない。3歳~4, 5歳と進むにつれ、話が盛り上がる。最初はうまくいかないかもしれないが、積み重ねることで、話を聞くこともうまくなっていく。ぜひ試してみてください。

すでにサークルタイムを保育に位置づけ、実践されている園や先生方もいらっしゃるかと思います。そこで今回は、少しですが「サークルタイム」についてご紹介させていただきます。

### <サークルタイムってどんなタイム?>

園訪問を行い、何園かの先生に、サークルタイムについて質問してみました。なかなか実践されている先生にお会いできず、具体的な取り組みを紹介できません。また、サークルタイムをネットで調べてみましたが、あまり詳しい説明や実践を得ることができませんでした。唯一巡り合えたのが、次のような内容でした。

「サークルタイム」で何が話し合われるかはその日次第です。あらかじめ決めることはせず、保育者は「ファシリテーター」となり、自然に話し合いが進むようにします。結論が出ない日も、すぐ終わってしまう日もあるでしょう。それでもいいのです。大切なのは、対話を繰り返すこと。

「なぜお箸でご飯を食べるの?」そんな身近なテーマでも対話が繰り広げられます。

「手がベタベタになっちゃうから」「ご飯が食べやすくなるから」「きれいに食べられるから」様々な意見が飛び交います。

自分の当たり前は、お友達の当たり前ではない。そんなことも学べる場になっています。

慣れてきたら、給食の献立を考えるのも楽しいですね。遠足の場所を相談したり、七夕パーティーの企画をしたりするのもおもしろい! 運動会の種目も「サークルタイム」で決まるかもしれません。考えただけでワクワクしてきます。

引用) <https://mirai.florence.or.jp/news/3832/>

子ども達にとってサークルタイムが機能するものになるには、積み重ねという時間が必要なようです。しかし、子ども達は私達が思っている以上に柔軟であり、適応能力もあります。この取り組みが子ども達の「人とちゃんと対話する能力」を高めてくれると感じました。(専門員)

なお、ネットには、カナダでのサークルタイムの内容も出ていました。興味のある方は閲覧してみてください。  
(<https://canadadehoikushi.com/circletime/>)